



1歩1歩前に進める勇氣と希望を胸に!!



田上新町における震災被害

令和6年1月1日(月曜)午後4時10分頃に、能登半島を襲った地震は「マグニチュード 7.6」を記録する強い揺れに伴い、地上2メートルに達する津波や大規模火災等が発生した地域に関しては死者、重軽傷者が日を追う毎に増え続けており、現在も活発に揺れは続くなかでの救命・救助活動にも限界があり、これからの被災地における天候悪化(積雪等)も予想されており、土砂災害・家屋およびビルの倒壊等も考えられ、被災地でのニーズに沿った支援活動が重要な局面を迎えることになります。

これまでの石川県・能登地方における地震に関しては、平成5年2月7日:午後10時27分頃に「マグニチュード6.6」の能登半島沖地震が発生、平成19年3月25日:午前9時41分頃に「マグニチュード6.9」の能登半島地震が発生、令和5年5月5日:午後2時42分頃に「マグニチュード6.5」の奥能登地震が発生、今回の令和6年能登半島地震は珠洲市周辺を中心として、約3年に亘って活発な地震活動を続けてきた故に、収束(終わり)の見えないコロナ禍を過ごして来た生活とも重なった部分もあることから、未知のウイルス同様に対策・対処法が見付からぬまま、自然の猛威と位置付けて『無力に屈する』諦めの生活を余儀なくされる現実に脅かされるだけなのではないでしょうか……。日本一のおもてなしを誇る『加賀屋』(和倉温泉)も震災で休業。

大きな地震が発生すると、その震源地付近における地震活動も活発化し、最初に発生した大きな地震が『本震』と呼ばれ、その後起こる地震を『余震』と呼んでいます。平成28年4月14日:午後9時26分頃に熊本県を襲った熊本地震は最初に「マグニチュード6.5」の地震が発生後、翌4月16日:午前1時25分頃に「マグニチュード7.3」を記録する大きな地震が発生し、この地震での死者は273人、住宅被害は約198,000棟にも上りました。今までの常識が通用しない『絶望感』だけが残る災害の恐怖に備える、人が生き抜くための方法(手段)は本当にあるのでしょうか……。今も増え続ける「死者数」に心が折れていきます。

<日頃から身を守る対策(備え)を考えておく>

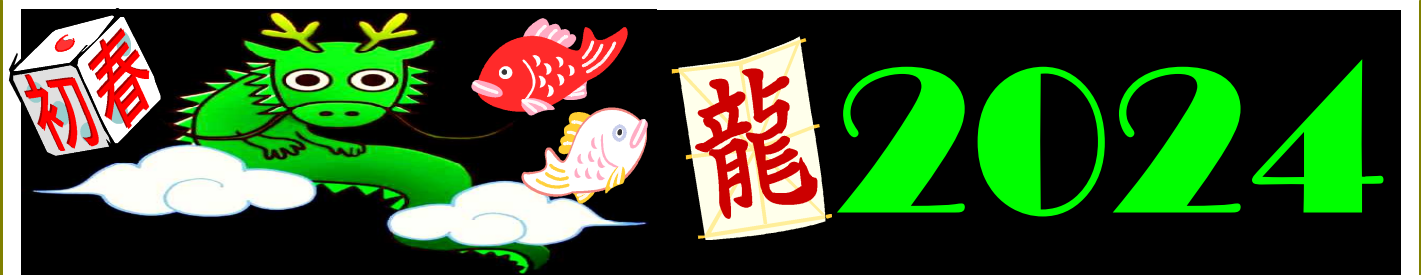
- ①大きな家具やテレビ等の転倒を避け、窓ガラスや蛍光灯、食器や花瓶等が落ちた際に割れて飛散する危険性を十分に考えた配置を考え、固定する工夫や片付けを定期的に行うことで日頃からの安全意識を高めておきましょう。
- ②災害時の避難場所や避難経路等の情報を普段から確認しながら、ハザードマップおよび地図を見て危険箇所の洗い出し(周囲の状況把握)をする意味でも、実際に休日などを利用して家族や個人で歩いてみるなどを試み、いざという時に屋内・屋外を問わず、スムーズに避難できる体制を整えておきましょう。
- ③災害時には、特に電気・ガス・水道等のライフラインが機能しなくなり、ある程度の『自力生活』が余儀なくされる事態になりますので、飲料水・非常用食品類・タオル類・常備薬(消毒薬)・新聞紙等を各自で前もって揃えておきましょう。

金沢市内でも震度5強の揺れが襲った結果、住宅地における斜面が崩れた影響により、民家が道路ごと崩れ落ち倒壊するなど、広い範囲(地域)におけるヒビ割れた地面や波打つ道路・歩道をはじめ、屋根瓦や石垣、墓石等も崩れるなどの箇所が市内で随所に見られます。

地震発生に伴う、戸室新保埋立場での災害廃棄物(ごみ)の仮置場が1月4日(木曜)から開設され、主に埋立ごみ(陶器・ガラス・石)、瓦、コンクリート製品、木製品(タンス・椅子・生木)、金属・小型家電類、家電4品目(テレビ・洗濯機・エアコン・冷蔵庫)を中心に、種類毎に分けて『地震で使えなくなったモノ』に対する搬入を受け入れています。



雪降る中での震災ごみ搬入



明けましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より市従労運動に対しご支援・ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。併せて、昨年一年間、多くの組合員の皆さんから取り組みに結集していただきましたことに、心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、人々の交流がパンデミック前に戻り地域も労働運動も活気が出てきたなと感じています。

一方で、各公務職場の現場ではまだまだ大変な状況が続いており、後遺症問題も含め、今後もコロナ対策を忘れてはなりません。

公共サービスの現場を担う私たちは、常に住民と接し、最前線で地域の課題と向き合っています。その現場で今何が起きているのか。

その事態を組合員の皆さんがどう捉え、何を課題と感じているのか、安心して定年まで働ける職場を作るためには、地域を支える公共サービスの現場の充実・強化が必要であると繰り返し訴え、実現を図ること、その組合としての役割を果たすため、引き続き努力していきます。

2024年は十干では甲、十二支では辰にあたるため、甲辰(きのえたつ)の年となるそうです。甲とは「甲乙丙丁~癸」の始まりであり、物事の始まりととらえることができる。

そして、辰は発芽した植物がしっかりとした形になる、勢いと大きな力、成功ととらえることができる。この二つが合わさる甲辰は、新しいことを始めて成功する、いままで準備してきたことが形になるといった、縁起のよい年になると考えられる……と書かれておりました。

改めて、さまざまな課題を直視し、労働組合の存在意義を実感する出発の年として、市従労全体での結集力と運動の底上げをめざしていかなければなりません。

地域公共サービスに携わる仲間としてお互いを認め合うこと、さらに、その中から課題を共有し、つながり合い・支え合える組合をめざし、行動していくこと、すなわち「共感」することの必要性を訴えたいと思います。

結びにあたり、今年一年が皆様とご家族にとって幸多い年である事をご祈念申し上げます。金沢市従業員労働組合 書記長 としての年頭のご挨拶とさせていただきます。皆さん、ともにがんばりましょう。

金沢市従業員労働組合 書記長 坂下英之